

高校中退に関連する生徒の意識

— 尺度の構成と基礎的分析 —

村 上 隆*・杉 江 修 治**・石 田 裕 久***

1. 問題の所在 — 高校中退の原因を考え直す
2. 方 法 — 調査対象と質問紙の構成
3. 結 果 — 構成された尺度の概要と中退との関係
4. 考 察 — 何が高校中退の引き金を引くのか？
4. 終わりに — 残された問題

1. 問題の所在 — 高校中退の原因を考え直す

高校中途退学率はここ数年2.5%前後の数値を行き来しており、解決すべき重要な教育的課題のひとつとなっている。文部省の白書のように、個々の中退の原因を単一要因にまとめた調査はいくつかある（そうした研究に関する詳細なレビューは、杉江・清水（2000）を参照していただきたい）。しかしながら、現実の中退の要因は複合的であると考えられ、構造的な検討が必要である。また、調査への回答は教師によるものが多く、生徒の認識とのずれも問題となるところである。さらに、その原因の多くを中退者個人の要因によるものとする傾向も強い。高校での生活、とりわけその主要な機能である教科指導の中身、あり方、教師との関わり、生徒集団の問題なども十分視野に入れた調査が必要と考えられる。

もう一つ、従来の研究の問題点は、中退という事実が生じた後に、その原因を遡及的につきとめようとしていることである。その場合、過去の事実や意識について中退という結果を前提として、回想を行わせることになり、事実が歪曲される可能性がある。また、中退しなかった生徒との比較も十分に行われているとは言えない。そうでない場合には、「中退を考えたことがある」、あるいは、「中退するつもりである」といった質問への回答をもって、中退者を認定しているケースもあるが、その妥当性には大いに問題がある。

本研究では、中退要因を構造的に把握し、その問題解決への提言に結びつく知見を得ることを意図し、生徒に多側面にわたる内容の調査を行なう。その際、調査は高校入学直後の時期に、原則的に対象となった学校の1年生全員に対して実施し、学年末の段階で、退学、または、休学・長期欠

* 教育発達科学研究科教授・計量心理学

** 中京大学教授

*** 南山大学教授

席中の生徒を同定して、2年次に進級する生徒との比較を行うことにより、従来よりも明確な形で中退の原因となる変数を見出そうとする。また、データの分析を通じて、原因について必ずしも相互に排反的でない形で構造化を図る。

この報告では、上述のように、高校1年生を対象とした、比較的入学直後に近い時点での質問紙調査を行なった結果について、データ分析の結果を中心として報告する。データ分析の過程の詳細や、教師調査等をあわせたより踏み込んだ考察については、別途刊行される報告書に詳述する予定であり、本報告は、速報的、予告的性格をもつものである。

2. 方 法 — 調査対象と質問紙の構成

被験者：X県立高校12校の1年生全員を対象とする。被調査校は、課程の違い、前年度の中退率の高低という点でのバラエティを考慮して選んだ。人数を含む内訳は表1の通りである。

表1 被験者の内訳（1回目）

高校 ¹⁾	生徒数			中退率		回収数			
	在籍	退学	留年	今回	11年度	総数 ²⁾	進級	退学	留年
A校(普)	405	1	1	0.2	0.1	401	400	1	0
B校(総)	240	4	2	1.7	2.3	237	221	3	2
C校(普)	235	39	5	16.6	7.4	215	161	25	1
D校(総)	240	2	2	0.8	0.5	236	222	0	1
E校(総)	246	16	8	6.5	4.8	227	211	8	4
F校(普)	259	67	36	25.9	15.3	175	136	23	11
G校(総)	249	61	11	24.5	22.4	192	47	8	3
H校(専)	245	34	3	13.9	6.2	235	199	27	3
I校(専)	321	5	3	1.6	4.0	313	296	3	2
J校(専)	134	27	10	20.1	9.1	126	96	20	10
K校(専)	418	32	3	7.7	4.0	396	285	13	2
L校(専)	204	5	2	2.5	2.3	196	191	3	0
合計	3,196	293	86			2,949	2,465	134	39

1) (普)は普通科,(総)は総合科,(専)専門科を示す。

2) 学籍番号無記入等のため、以下の総数とは一致しない。

質問紙：5つの部分からなる。第1部は「不登校につながり得る性格・態度の測定」96項目、第2部は「中学校の改善点」14項目、第3部は「高校の改善点」16項目、第4部は「家庭・家族のイメージ」18項目、第5部は「地域への満足度」6項目、計150項目。第5部を除き、反応は、「よくあっている」、「ややあっている」、「あまりあっていない」、「全くあっていない」の4段階である。「よくあっている」を4、「全くあっていない」を1として得点化した。第5部のみ、「はい」、「いいえ」の2

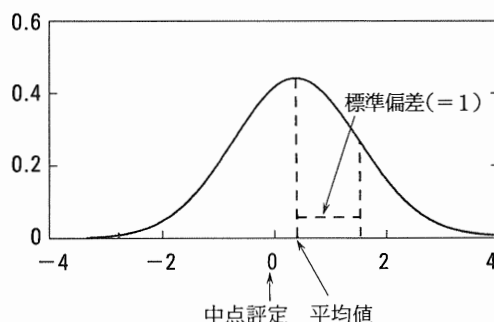


図1 尺度得点の説明

件法によった。「はい」を1、「いいえ」をゼロとして以下の分析に用いている。

調査の実施：2000年5～7月上旬。各学校単位で教師が実施。回答は封筒に封じ入れ当該校教師に内容を見せない形をとり、生徒番号は書かせて回答者の同定が可能な形とした。

追跡調査：2001年1～2月、同一の質問紙を用いた2度目の調査を実施した（その結果は、本報告には含まれない）。その際、各高校から、その時点における退学者、休学者、長期欠席者の生徒番号を報告してもらった。その結果、表1に示したように、全在籍者のうち、293名が中退、86名が休学または長期欠席中（表1では「留年」と表記した）であることが判明した。しかしながら、その多くが第1回調査時点で既に欠席しており、クラス名、生徒番号の無記入等とあいまって、第1回調査の結果が得られたのは、やはり表1に示すとおり、退学者中134名、休学・長期欠席者中39名にとどまった。

分析手続き：同時主成分分析（Kiers & Ten Berge, 1989）を適用し、各項目に対するウェイトを、各部分ごとに求めた。さらに、Harris-Kaiserの独立クラスター回転を行い、第1～第5の各部分において、それぞれ、9, 4, 4, 4, 2個の尺度を定義した。これらの尺度は、求めた重みをそのまま用いた主成分得点である。独立クラスター回転では、主成分パターンと重みが列ごとに比例関係にある（Kiers & Ten Berge, 1994）ので、ここで言う主成分得点は、パターンそのものを重みとした1次合成変量を、分散が1となるように標準化したものである。つまり、以下の表2、4、6、8、10に示す主成分付加量の数値は、各変量から主成分への標準回帰係数、すなわち、主成分パターンとしても、主成分得点を求めるための重みとしても解釈できる。

さらに、全体の反応傾向が読み取れるように、全項目に（仮想的な）中点評定（第1～4部では、2.5、第5部では0.5）を与えた受験者の得点が0となる位置に、得点を平行移動した（図1参照）。これにより、得点が正であることは、その尺度が測定している次元上で反応が全体として「あてはまる」の方向にあること、負の場合には「あてはまらない」の方向にあることが示される。

3. 結 果 — 構成された尺度の概要と中退との関係

尺度の構成：ここでは、第1部から第5部について、前述のようなやり方で構成された尺度の内容について、項目例をあげながら説明しよう。

<1部：中退関連意識>

第1部の各尺度は、次のように解釈された。主成分負荷量行列を表2-1～3に、主成分間の相関行列を表3に示した。表2の対角要素（斜体）はアルファ係数である（以下同じ）。それぞれの尺度の名称と解釈を示す。

尺度1-I：問題行動 問題行動の経験をもつ。「目立ちたい」という自己顕示欲や、「今の社会は生活しやすいと思う」とような安易な姿勢も含まれており、「社会化への不安の低さ、根拠のない楽天主義」と呼ぶことができるように思われる。平均値はマイナスで、高校生全体についていえる傾向ではない。この尺度の学校別平均値と学校の中退率とは強い関係がある。

<項目例>

16. 見つかったら指導を受けるようなことをしたことがある。

- 50. 学校をよくさぼったことがある。
- 78. 目立ちたい。
- 79. いわゆる問題行動をしたことがある。
- 96. 今の社会は生活しやすいと思う。
(以下、主成分パタン係数 0.4 未満)
- 11. 何をしてでも生きていけるという自信はある。
- 17*. 学校以外で、1日1時間以上は勉強している。
- 47. 自分には、他の人とちがった才能があると思う。

表 2-1a 第1部の主成分負荷行列 (1)

項 目
1. 項目最近の高校生は個性的な人が多くなったと思う。.....
2. 自宅ではくつろげる。.....
3. 自分は、あまやかされて育ったと思う。.....
4. すなおに話ができる先生が校内にいる。.....
5. 部活・クラブ活動は楽しい。.....
6. 授業は時間のむだだと思うことがある。.....
7. はっきりした目標をもって生きている。.....
8. この高校に合格したときはうれしかった。.....
9. 学校ではリラックスしていることが多い。.....
10. 勉強が好きの方だと思う。.....
11. 何をしてでも生きていけるという自信はある。.....
12. 自分にとって、学校は必要ないと思うことがある。.....
13. なにかスカッとすることがしたい。.....
14. 高校ぐらいは卒業しておかないと、将来こまることになると思う。.....
15. 得意な科目がある。.....
16. 見つかったら指導を受けるようなことをしたことがある。.....
17. 学校以外で、1日1時間以上は勉強している。.....
18. 保健室に行きたくることが多い。.....
19. 親(保護者)の期待に反するようなことは、したくない。.....
20. 今の社会には納得(なっとく)のいかないことが多い。.....
21. 中学校時代に、授業がわからなかったことがある。.....
22. とくどき何もしたくなくなる。.....
23. 将来(しょうらい)つきたい職業はきまっている。.....
24. 最近の高校生は無気力だと思う。.....
25. 大学に進学するつもりである。.....
26. 他人とは、ちがった生き方がしたい。.....
27. 校則がきびしすぎる。.....
28. 中学校時代には、勉強する意欲(いよく)があった。.....
29. 何となくテレビを見て過ごしていることが多い。.....
30. 毎日、学校に来るのが楽しい。.....
31. 授業がつまらない。.....
32. もっと実際(じっさい)に役に立つことが勉強したい。.....

62. 今までに不登校だったことがある。

72. だれかに言われなければ、勉強する気にならない。

* は逆転項目

尺度 1 - II : 反学校的意識 授業が面白くなく、学校に来るのが楽しくなく、自分にとって学校は必要ないという意識。平均値はプラスで、本研究の被験者に広く蔓延している意識である。第 I 尺度との相関も高い。

<項目例>

4* . すなおに話ができる先生が校内にいる。

表 2 - 1 b 第 1 部の主成分負荷行列 (1)

番号	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	h^2
1	0.07	-0.06	0.14	-0.05	0.06	0.04	0.24	-0.04	-0.02	0.09
2	0.11	0.04	-0.03	-0.01	-0.10	0.61	-0.01	-0.01	-0.04	0.32
3	0.33	-0.14	0.11	-0.03	0.06	0.37	-0.16	-0.08	-0.09	0.20
4	0.23	-0.46	0.04	0.05	-0.06	0.13	0.07	0.05	0.06	0.27
5	0.07	-0.23	-0.13	0.10	0.23	-0.03	0.06	0.27	-0.10	0.24
6	0.17	0.51	0.01	-0.05	0.02	0.04	0.01	0.08	-0.03	0.35
7	-0.02	0.01	-0.04	-0.06	0.04	-0.01	-0.02	0.80	-0.02	0.60
8	-0.04	-0.29	0.26	-0.09	-0.09	0.27	0.23	0.06	-0.23	0.30
9	0.29	-0.33	-0.10	0.01	-0.03	-0.02	0.38	-0.04	-0.03	0.30
10	-0.05	-0.40	0.13	-0.03	-0.03	-0.06	-0.14	0.03	0.51	0.46
11	0.31	0.06	-0.16	0.02	-0.05	0.06	0.18	0.16	0.23	0.28
12	0.12	0.47	0.04	0.03	-0.11	0.05	-0.13	0.00	0.08	0.34
13	0.02	0.20	0.47	-0.12	0.11	0.00	0.10	-0.02	-0.01	0.31
14	-0.16	0.10	0.23	-0.01	0.37	0.18	0.18	-0.07	-0.11	0.30
15	-0.06	-0.09	0.02	0.10	0.10	0.02	0.18	0.17	0.25	0.29
16	0.56	0.00	0.01	0.02	0.04	-0.13	0.08	-0.10	0.00	0.38
17	-0.35	-0.23	0.24	-0.10	-0.05	-0.13	0.02	0.06	0.30	0.28
18	0.25	0.06	0.27	-0.13	-0.16	0.06	-0.19	-0.01	0.08	0.25
19	-0.12	-0.05	0.16	0.05	-0.01	0.43	0.00	-0.03	0.15	0.29
20	-0.12	0.20	0.19	0.28	-0.08	-0.12	0.08	0.20	0.03	0.26
21	0.18	0.01	0.17	0.04	-0.03	0.19	-0.02	0.17	-0.48	0.30
22	-0.04	0.15	0.48	-0.02	-0.11	0.09	0.01	-0.07	-0.11	0.31
23	-0.09	0.02	0.08	-0.09	-0.03	-0.01	-0.01	0.78	-0.14	0.53
24	0.04	0.06	0.00	0.56	-0.03	0.04	-0.07	-0.04	0.00	0.31
25	0.03	-0.04	-0.08	-0.04	0.70	-0.11	-0.07	0.10	0.04	0.48
26	0.21	0.13	0.00	0.17	0.08	-0.02	0.02	0.32	0.04	0.26
27	0.15	0.39	0.24	-0.30	0.00	0.03	0.16	-0.02	0.08	0.38
28	-0.25	-0.07	0.32	-0.18	-0.04	0.04	-0.01	-0.01	0.45	0.28
29	0.06	0.02	0.26	-0.14	0.01	0.37	-0.07	-0.14	-0.12	0.19
30	0.12	-0.52	0.00	-0.05	0.03	-0.10	0.46	0.08	-0.10	0.51
31	0.09	0.56	0.05	-0.06	0.07	0.07	0.06	0.07	-0.14	0.39
32	-0.07	0.30	0.13	0.14	0.18	-0.05	0.09	0.29	-0.04	0.26

- 6. 授業は時間のむだだと思うことがある。
- 12. 自分にとって、学校は必要ないと思うことがある。
- 30*. 毎日、学校に来るのが楽しい。
- 31. 授業がつまらない。
- 54*. 授業はおもしろい。
- 56*. 自分はいじめを受けやすいほうだ。
- 80. 朝、学校に行きたくないと思うことがよくある。
- 85*. 学校での勉強は、自分の将来のためになると思う。

表 2-2a 第 1 部の主成分負荷行列 (2)

項	目
33.	むしょうに腹が立ってしかたがないときがある。.....
34.	家に帰りたくないと思うことがある。.....
35.	文章や絵などで自分の言いたいことを表現するのが好きだ。.....
36.	アルバイトをしている。.....
37.	友人には、めぐまれていると思う。.....
38.	しばらくは、いやでも学校生活にたえなければいけないと思う。.....
39.	大学受験をしないなら、勉強する必要はない。.....
40.	学校の外に親しい友人がいる。.....
41.	家出をしたいと思ったことがある。.....
42.	親(保護者)とは、よく話すほうだ。.....
43.	もっと楽しく学べるような授業のしかたがあると思う。.....
44.	自分は値打ちのない人間だと思う。.....
45.	なるべくいい仕事につきたい。.....
46.	親(保護者)は自分を信頼していると思う。.....
47.	自分には、他の人よりちがった才能があると思う。.....
48.	学歴が人生をきめるのはおかしいと思う。.....
49.	友だちとのつきあいが、うとうしいと思うことがある。.....
50.	学校をよくさばったことがある。.....
51.	今の高校生は、おたがいに高めあおうとしない。.....
52.	他人の気持ちが理解できない人が多い。.....
53.	学校をやめて働く方がましだと思うことがある。.....
54.	授業はおもしろい。.....
55.	将来の自分について、だいたいイメージが描(えが)ける。.....
56.	自分はいじめを受けやすいほうだ。.....
57.	授業の内容は、だいたい理解できている。.....
58.	学校の中でプライドを傷つけられたことがある。.....
59.	学校で友だちに会うのは楽しい。.....
60.	小学校時代に、授業がわからなかったことがある。.....
61.	いやなことでも、やりとげるまでがんばる方だ。.....
62.	今までに不登校だったことがある。.....
63.	学力は、ある方だと思う。.....
64.	好きなことに関してなら、いくらでもがんばれる。.....

91. 最近、教師の質が下がっているとされるのは本当だろう。

尺度Ⅰ－Ⅲ：ストレス・無気力 「無性に腹が立ち」、「何かに当たり散らしたくなる」反面、「自分の将来に不安」であり、「ときどき何もしたくなくなる」という特性。

<項目例>

- 13. なにかスカッとすることがしたい。
- 22. ときどき何もしたくなくなる。
- 33. むしょうに腹が立ってしかたがないときがある。
- 41. 家出をしたいと思ったことがある。

表 2-2b 第 1 部の主成分負荷行列 (2)

番号	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	h^2
33	-0.02	0.19	0.57	-0.10	-0.04	-0.05	-0.02	0.03	0.01	0.41
34	0.14	-0.13	0.39	-0.13	-0.02	-0.52	0.18	-0.09	0.03	0.50
35	0.09	-0.16	0.20	0.06	-0.23	0.09	-0.09	0.31	0.09	0.25
36	0.19	-0.05	0.07	0.04	-0.10	-0.20	0.09	-0.03	0.11	0.13
37	0.02	0.03	0.05	-0.02	-0.15	0.03	0.68	-0.01	0.01	0.47
38	-0.10	0.36	0.26	0.07	0.10	0.15	-0.01	0.01	0.02	0.23
39	0.23	0.38	0.03	-0.08	-0.02	0.04	0.03	-0.06	-0.05	0.30
40	-0.06	0.11	0.14	0.04	-0.08	-0.04	0.46	0.02	0.02	0.23
41	0.15	-0.04	0.41	-0.11	-0.06	-0.43	0.09	-0.02	0.00	0.48
42	-0.05	-0.05	0.14	0.03	-0.21	0.53	0.11	0.06	0.03	0.36
43	0.02	0.27	0.16	0.11	0.14	0.09	0.17	0.17	-0.03	0.23
44	-0.07	-0.16	0.32	0.09	0.01	-0.17	-0.19	-0.17	-0.27	0.33
45	-0.11	0.23	0.19	0.03	0.40	0.13	0.20	-0.11	0.07	0.30
46	-0.03	0.05	0.05	0.01	-0.08	0.58	0.10	-0.03	0.21	0.41
47	0.33	0.11	-0.16	0.07	0.07	0.18	0.01	0.31	0.33	0.46
48	-0.12	0.21	0.11	0.19	-0.21	0.01	0.27	0.12	-0.07	0.21
49	0.06	0.04	0.29	0.11	-0.05	0.02	-0.35	-0.06	0.16	0.29
50	0.58	-0.02	0.04	-0.08	-0.14	-0.06	-0.08	-0.06	0.04	0.42
51	0.04	0.08	-0.08	0.63	-0.07	-0.02	-0.09	-0.10	0.08	0.38
52	0.01	0.06	0.01	0.61	-0.07	0.00	-0.15	0.02	0.00	0.40
53	0.13	0.33	0.18	0.02	-0.25	-0.05	-0.09	0.00	0.06	0.38
54	0.08	-0.72	0.04	0.05	-0.06	-0.01	0.01	0.01	0.15	0.53
55	0.04	-0.04	0.05	-0.11	-0.06	0.03	-0.07	0.74	0.04	0.53
56	0.08	-0.42	0.30	0.03	-0.04	-0.01	-0.52	0.19	-0.11	0.42
57	-0.24	-0.17	0.05	0.05	0.03	-0.03	0.00	-0.08	0.56	0.46
58	0.15	-0.10	0.35	0.04	0.07	-0.10	-0.33	0.22	0.08	0.35
59	0.02	-0.25	0.15	0.00	-0.04	-0.03	0.66	-0.03	-0.15	0.49
60	0.12	-0.05	0.15	-0.04	0.00	0.12	-0.07	0.08	-0.30	0.12
61	-0.24	-0.01	0.09	0.06	-0.03	0.01	0.18	0.17	0.30	0.27
62	0.38	-0.35	0.07	0.08	-0.10	-0.08	-0.29	0.05	-0.03	0.23
63	0.07	-0.03	0.01	-0.01	0.09	0.07	-0.03	-0.13	0.71	0.52
64	-0.17	0.09	0.11	0.14	-0.09	-0.02	0.29	0.30	0.03	0.27

- 68. 自分の将来について不安になることがある。
- 73. 何かにあたりちらしたくなることがある。
- 86. たよれる人が欲しい。

以上の3尺度は、相関から考えても一つのまとまりをなしており、すべて社会的に望ましくない方向の特性であることから、「ネガティブ3」と呼んでもよいであろう。

尺度1-IV：現代高校生批判 「最近の高校生は…」で始まる望ましくない態度や行動について肯

表2-3a 第1部の主成分負荷行列(3)

項	目
65.	先生にほめられたい。……………
66.	自分は正当に評価(ひょうか)されていないと思う。……………
67.	最近の高校生は勉強しなくなったと思う。……………
68.	自分の将来について不安になることがある。……………
69.	なるべくいい大学に入りたい。……………
70.	だれかに言われなければ、勉強する気にならない。……………
71.	自分のなやみを打ち明けられる人がある。……………
72.	たいていのことは、同じとしごろの人たちよりうまくできる。……………
73.	何かにあたりちらしたくなることがある。……………
74.	目標を達成(たっせい)するには自分の力が足りないと思う。……………
75.	今の学校は、世の中に合わなくなってきたと思う。……………
76.	もっと忍耐力(にんたいりょく)をつけないといけないと思う。……………
77.	同級生とくらべて能力のある方だと思う。……………
78.	目立ちたい。……………
79.	いわゆる問題行動をしたことがある。……………
80.	朝、学校に行きたくないと思うことがよくある。……………
81.	自分でも、何がしたいのかわからない。……………
82.	親(保護者)の期待が重荷(おもに)だと感じることもある。……………
83.	友だちは少ない方だ。……………
84.	学校で会うのがこわい生徒がいる。……………
85.	学校での勉強は、自分の将来のためになると思う。……………
86.	たよれる人が欲しい。……………
87.	同じ高校に異性の友人がいる。……………
88.	学校で不公平な扱(あつか)いをされて腹が立ったことがある。……………
89.	学校の勉強以外に熱中していることがある。……………
90.	最近の高校生には緊張感(きんちょうかん)が足りないと思う。……………
91.	最近、教師の質が下がっているとされるのは本当だろう。……………
92.	今の学校をやめて、別の道に進むことを考えている。……………
93.	最近の高校生には、不道德(ふどうとく)な行動が多いと思う。……………
94.	実技や実習などの授業は楽しい。……………
95.	何も考えずに学校にきている連中を見るとむかつく。……………
96.	今の社会は生活しやすいと思う。……………

定する傾向。第Ⅲ尺度に高い相関をもつ一方、肯定的な意識である尺度ⅧやⅨとも相関している2面的な特徴である。

<項目例>

24. 最近の高校生は無気力だと思う。
 51. 今の高校生は、おたがいに高めあおうとしない。
 52. 他人の気持ちが理解できない人が多い。
 67. 最近の高校生は勉強しなくなったと思う。
 90. 最近の高校生には緊張感（きんちょうかん）が足りないと思う。

表2-3b 第1部の主成分負荷行列(3)

番号	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	h ²
65	0.06	-0.26	0.36	-0.05	0.15	0.34	0.02	0.00	0.12	0.38
66	0.16	0.20	0.14	0.09	0.13	-0.13	-0.04	0.05	0.09	0.22
67	0.00	0.00	0.04	0.56	-0.03	-0.03	0.19	-0.19	0.00	0.31
68	-0.12	-0.16	0.53	0.13	0.14	0.02	0.07	-0.05	-0.15	0.36
69	0.02	0.03	0.03	-0.06	0.79	-0.01	-0.04	-0.01	0.08	0.62
70	0.31	0.06	-0.06	0.14	0.29	0.15	0.03	-0.11	-0.33	0.26
71	0.06	-0.08	0.17	-0.07	-0.21	0.09	0.42	0.03	0.06	0.27
72	0.21	0.08	-0.01	0.07	0.06	0.07	0.21	-0.04	0.45	0.35
73	0.01	0.12	0.61	-0.11	-0.06	-0.06	0.00	0.01	0.00	0.43
74	-0.09	-0.17	0.36	0.19	0.14	-0.05	0.07	0.05	-0.29	0.28
75	-0.01	0.37	0.10	0.27	-0.03	-0.11	0.00	0.09	0.13	0.31
76	0.03	-0.14	0.21	0.32	0.12	0.09	0.10	0.01	-0.21	0.26
77	0.22	0.12	-0.11	0.06	0.17	0.12	-0.01	0.03	0.61	0.52
78	0.41	-0.02	0.19	-0.04	0.09	0.15	0.15	0.07	0.13	0.32
79	0.65	0.00	-0.03	0.05	0.07	-0.16	0.04	-0.04	-0.03	0.48
80	0.14	0.40	0.27	-0.01	-0.06	0.15	-0.23	-0.08	0.06	0.44
81	0.04	0.05	0.39	0.08	-0.01	-0.05	-0.03	- 0.50	0.00	0.44
82	0.10	-0.11	0.38	0.01	0.08	-0.27	0.07	-0.11	0.07	0.26
83	-0.04	-0.19	0.16	0.04	0.02	0.03	- 0.61	0.03	-0.11	0.41
84	0.01	-0.18	0.31	0.01	0.00	0.10	-0.39	0.11	-0.01	0.24
85	-0.11	- 0.44	0.17	0.05	0.16	0.11	0.01	0.02	0.08	0.40
86	-0.11	-0.11	0.53	0.04	0.07	0.09	-0.05	-0.06	0.05	0.29
87	0.25	-0.07	0.14	-0.09	-0.06	-0.07	0.34	0.01	0.11	0.26
88	0.15	0.11	0.28	0.05	0.06	-0.23	-0.03	0.08	0.08	0.29
89	0.13	-0.07	-0.05	0.23	0.11	-0.05	0.12	0.38	-0.10	0.29
90	0.00	-0.11	-0.04	0.72	-0.03	0.04	0.05	-0.08	-0.03	0.49
91	-0.05	0.41	0.12	0.21	0.04	-0.16	0.10	0.03	0.14	0.31
92	0.25	0.18	0.10	0.00	-0.22	-0.14	-0.19	0.07	0.16	0.36
93	0.02	-0.07	0.02	0.69	-0.05	0.04	0.00	-0.07	0.03	0.47
94	-0.01	-0.21	0.15	0.19	0.01	-0.02	0.31	0.04	-0.01	0.22
95	0.00	-0.11	0.08	0.27	0.06	0.01	-0.18	0.15	0.17	0.26
96	0.41	-0.27	-0.13	-0.06	0.13	0.18	0.05	-0.14	-0.01	0.21
主成分寄与	3.40	4.98	4.61	3.45	2.40	2.91	4.06	3.38	3.49	32.68

表3 第1部の主成分間相関行列

主成分	平均値	SD	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
I	-1.15	1.85	<i>0.72</i>	0.43	0.35	0.03	-0.18	-0.27	0.09	0.05	0.02
II	0.67	2.25	0.43	<i>0.81</i>	0.31	-0.01	-0.24	-0.34	-0.16	-0.17	-0.24
III	0.65	2.13	0.35	0.31	<i>0.79</i>	0.34	0.09	-0.13	-0.08	0.08	-0.03
IV	0.72	1.86	0.03	-0.01	0.34	<i>0.72</i>	0.20	0.13	-0.03	0.26	0.22
V	0.49	1.58	-0.18	-0.24	0.09	0.20	<i>0.61</i>	0.24	0.05	0.07	0.21
VI	1.04	1.71	-0.27	-0.34	-0.13	0.13	0.24	<i>0.66</i>	0.21	0.15	0.17
VII	1.91	2.03	0.09	-0.16	-0.08	-0.03	0.05	0.21	<i>0.77</i>	0.30	0.15
VIII	0.45	1.84	0.05	-0.17	0.08	0.26	0.07	0.15	0.30	<i>0.71</i>	0.35
IX	-1.04	1.87	0.02	-0.24	-0.03	0.22	0.21	0.17	0.15	0.35	<i>0.72</i>

注：相関行列の対角要素（斜体）は α 係数である。なお、ここで掲載した相関係数は、学校間の平均差を反映しないように、素点から学校ごとの平均値を減じた上で算出している。すなわち、級内共分散行列を相関行列に変換したものである。なお、SDはすべての主成分について1であるが、ここには重みのノルムを1とした場合の値を参加のために示した。以下の、表-5、7、9、11に関しても同様である。

93. 最近の高校生には、不道德（ふどうとく）な行動が多いと思う。

尺度V：道具としての学校 大学への強い進学希望とともに、「高校ぐらいいは出ておかないと」、「なるべくいい仕事につきたい」等、学校への消極的な肯定感である。

<項目例>

25. 大学に進学するつもりである。

69. なるべくいい大学に入りたい。

14. 高校ぐらいいは卒業しておかないと、将来こまることになると思う。

45. なるべくいい仕事につきたい。

尺度1-VI：家庭・両親との良好な関係 家庭でのくつろぎ、両親との良好なコミュニケーションで特徴づけられる。

<項目例>

2. 自宅ではくつろげる。

19. 親（保護者）の期待に反するようなことは、したくない。

34*. 家に帰りたくないと思うことがある。

41*. 家出をしたと思ったことがある。

42. 親（保護者）とは、よく話すほうだ。

46. 親（保護者）は自分を信頼していると思う。

以上IV~VIの3つの尺度は、相互に相関しており、全体としては「社会的望ましさ」に関して中立的であることから、「ニュートラル3」と呼んでおこう。

尺度1-VII：友人との良好な関係 友人関係に恵まれ、友達が多いと考える特性。全ての尺度のうちで、平均点は高い。現在のところ、多くの高校生が学校に通いつづける最大の理由のようである。

<項目例>

- 30. 毎日、学校に来るのが楽しい。
- 37. 友人には、めぐまれていると思う。
- 40. 学校の外に親しい友人がいる。
- 56*. 自分はいじめを受けやすいほうだ。
- 59. 学校で友だちに会うのは楽しい。
- 71. 自分のなやみを打ち明けられる人がある。
- 83*. 友だちは少ない方だ。

尺度1-VIII：明確な目的意識 はっきりした目標をもち、就きたい職業、将来の自己イメージも明確である傾向。

<項目例>

- 7. はっきりした目標をもって生きている。
- 23. 将来（しょうらい）つきたい職業はきまっている。
- 55. 将来の自分について、だいたいイメージが描（えが）ける。
- 81*. 自分でも、何がしたいのかわからない。

尺度1-IX：学力・自尊感情 「勉強が好きな方」、「学力はある方」という自己評価に支えられた自尊感情である。尺度Iと同程度の低い平均値である。

<項目例>

- 10. 勉強が好きな方だと思う。
- 21*. 中学校時代に、授業がわからなかったことがある。
- 28. 中学校時代には、勉強する意欲（いよく）があった。
- 57. 授業の内容は、だいたい理解できている。
- 63. 学力は、ある方だと思う。
- 72. たいていのことは、同じとしごろの人たちよりうまくできる。
- 77. 同級生とくらべて能力のある方だと思う。

尺度VII～IXは、意味的には社会的に望ましい方向にあり、相互に正に相関するので「ポジティブ3」と呼ぶことができよう。

<第2～3部：学校への満足度>

第2部と第3部では、ほぼ同じ構造の4尺度が得られている。それぞれの主成分負荷量行列を表4と表6に、主成分間の相関行列を表5と表7に示した。それぞれの尺度の名称と解釈を示す。ともに、平均値はマイナスである。これらの項目は、「改善すべき点」を質問しているので、非調査者の全般的傾向としては、現状に特に不満がないという方向である。

尺度2, 3-I：他の生徒の態度 他の生徒の生活態度、他の生徒の学習態度

尺度2, 3-II：学校の雰囲気 クラスや学校の雰囲気、クラスのまとまり

尺度2, 3-III：教師の技量・態度 授業のわかりやすさ、授業に対する先生の熱意

表4 第2部の主成分負荷行列

項 目	I	II	III	IV	h^2
1. クラスや学校の雰囲気(ふんいき) …	0.04	0.87	-0.07	0.01	0.75
2. クラスのまとまり ……………	0.03	0.86	-0.02	0.00	0.75
3. クラブ・部活動 ……………	-0.12	0.61	0.20	-0.01	0.43
4. 授業のわかりやすさ ……………	-0.06	0.05	0.80	-0.01	0.64
5. 授業に対する先生の熱意 ……………	0.06	-0.05	0.94	-0.13	0.74
6. 先生の生徒に対する接し方 ……………	0.01	-0.01	0.80	0.04	0.67
7. 校則の内容 ……………	-0.10	-0.10	0.26	0.57	0.52
8. 学校行事の内容 ……………	0.04	0.05	0.19	0.48	0.41
9. 宿題の出し方 ……………	0.05	0.05	-0.16	0.87	0.66
10. 成績のつけ方 ……………	0.02	0.00	-0.05	0.83	0.66
11. 定期試験 ……………	-0.05	0.01	-0.12	0.92	0.71
12. 生活指導のしかた ……………	0.05	-0.05	0.27	0.56	0.56
13. 他の生徒の授業中の態度 ……………	0.94	0.01	0.01	0.00	0.91
14. 他の生徒の生活態度 ……………	0.94	0.00	0.01	0.00	0.90
主成分寄与	1.83	1.89	2.42	3.18	9.31

表5 第2部の主成分相関行列

主成分	平均値	SD	I	II	III	IV
1	-0.40	1.35	0.49	0.50	0.32	0.24
2	-0.96	1.37	0.50	0.51	0.42	0.25
3	-0.47	1.56	0.32	0.42	0.63	0.60
4	-0.69	1.79	0.24	0.25	0.60	0.74

表6 第3部の主成分負荷行列

項 目	I	II	III	IV	h^2
1. クラスや学校の雰囲気(ふんいき) …	0.08	0.83	-0.04	0.04	0.75
2. クラスのまとまり ……………	0.10	0.84	-0.03	0.00	0.78
3. クラブ・部活動 ……………	-0.09	0.47	0.35	-0.05	0.37
4. 授業のわかりやすさ ……………	-0.03	-0.01	0.86	-0.02	0.71
5. 授業に対する先生の熱意 ……………	0.03	-0.02	0.93	-0.07	0.77
6. 先生の生徒に対する接し方 ……………	-0.04	0.00	0.74	0.14	0.68
7. 校則の内容 ……………	-0.36	0.25	-0.09	0.81	0.62
8. 学校行事の内容 ……………	-0.06	0.16	-0.02	0.66	0.47
9. 宿題の出し方 ……………	0.15	-0.16	0.07	0.72	0.61
10. 成績のつけ方 ……………	0.19	-0.22	0.13	0.73	0.70
11. 定期試験 ……………	0.20	-0.24	0.02	0.81	0.71
12. 選択科目の種類 ……………	0.13	-0.01	0.00	0.64	0.47
13. 生活指導のしかた ……………	-0.19	0.18	-0.06	0.81	0.63
14. 家庭反省や留年の基準 ……………	-0.02	0.02	-0.03	0.79	0.59
15. 他の生徒の授業中の態度 ……………	0.88	0.09	-0.02	-0.01	0.84
16. 他の生徒の生活態度 ……………	0.89	0.07	0.00	0.01	0.85
主成分寄与	1.87	1.88	2.31	4.53	10.59

表7 第3部の主成分相関行列

主成分	平均値	SD	I	II	III	IV
1	-0.79	1.37	0.50	0.48	0.27	0.29
2	-0.80	1.38	0.48	0.51	0.33	0.28
3	-0.48	1.52	0.27	0.33	0.60	0.65
4	-0.64	2.12	0.29	0.28	0.65	0.83

尺度2, 3-IV: 学校運営 校則の内容、生活指導の仕方、成績のつけ方

〈第4部: 家庭のイメージ〉

やはり4つの尺度が得られた。主成分負荷量行列を表8に、主成分間の相関行列を表9に示した。それぞれの尺度の名称と解釈を示す。全般的には正の方向にある。

尺度4-I しっかりした家族・家庭 まじめな、こころ豊かな、きちんとした

尺度4-II 明るい家族・家庭 陽気な、にぎやかな、個性的な

尺度4-III 責任感のある家族・家庭 無責任な*、冷たい*、まとまりのない*

尺度4-IV 厳しすぎない家族・家庭 きびしい*、かたくなるしい*

〈第5部: 地域への満足度〉

2つの尺度が得られた。主成分負荷量行列を表10に、主成分間の相関行列を表11に示した。それぞれの尺度の名称と解釈を示す。

表8 第4部の主成分負荷量行列

項 目	I	II	III	IV	h^2
1. まじめな	0.92	-0.39	-0.04	-0.23	0.63
2. こころ豊かな やさしい	0.58	0.27	-0.04	0.24	0.69
3. 陽気な	-0.09	0.87	-0.04	0.03	0.67
4. やさしい	0.53	0.28	-0.06	0.31	0.69
5. つきあいのよい	0.16	0.65	-0.02	0.05	0.58
6. にぎやかな	-0.26	0.97	0.06	-0.11	0.70
7. たのもしい	0.24	0.50	0.13	-0.09	0.50
8. 無責任な	-0.06	0.10	-0.84	0.08	0.66
9. 前向きな	0.13	0.59	0.12	-0.21	0.47
10. 冷たい	0.12	-0.13	-0.71	-0.15	0.62
11. 個性的な	-0.28	0.87	-0.17	-0.25	0.49
12. 心のひろい	0.43	0.33	-0.07	0.25	0.56
13. まとまりのない	0.00	0.03	-0.78	0.03	0.58
14. やすらぎのある	0.41	0.34	-0.05	0.25	0.56
15. きちんとした	0.77	-0.08	0.11	-0.24	0.60
16. 仲のよい	0.17	0.60	0.05	0.13	0.61
17. きびしい	0.14	0.20	0.10	-0.88	0.70
18. かたくなるしい	0.06	-0.10	-0.21	-0.68	0.64
主成分寄与	2.74	4.46	1.97	1.79	10.96

表9 第4部の主成分相関行列

主成分	平均値	SD	I	II	III	IV
1	0.39	1.66	0.67	0.59	0.36	0.12
2	0.72	2.12	0.59	0.82	0.35	0.31
3	0.83	1.41	0.36	0.35	0.53	0.33
4	0.44	1.34	0.12	0.31	0.33	0.47

表10 第5部の主成分負荷行列

項 目	I	II	h^2
1. 今住んでいる街が好きですか？	0.76	0.04	0.60
2. その街にずっと住み続けたいですか？	0.81	-0.20	0.60
3. その街を誇(ほこ)らしく思いますか？	0.76	0.07	0.62
4. 住んでいる街によい「おもいで」がありますか？	0.35	0.46	0.44
5. お祭りなど、地域の活動に何か参加したことがありますか？	-0.09	0.81	0.61
6. 近所の人と出会ったとき、あいさつをしたり、話をしたりしますか？	-0.02	0.66	0.43
主 成 分 寄 与	1.96	1.34	3.30

表11 第5部の主成分相関行列

主成分	平均値	SD	I	II
1	0.18	1.40	0.59	0.32
2	1.16	1.16	0.32	0.31

尺度5-I 地域への愛着 今住んでいる街が好き、この街にずっと住み続けたい

尺度5-II 地域への参加度 住んでいる街によい「思い出」がある、地域の活動に参加する

学校間の差および中退者の傾向： 表12～15に、学校別の尺度の平均値、全被調査者の平均値、および追跡調査で確認された中退者、および、休学・長期欠席者の平均値を示した。「方法」の項で述べた尺度の性質上、平均値での1点の差は、尺度値の分布で標準偏差1つ分の差に対応する。

学校の中退率、および中退者の（在学中の）反応から、中退に強く関連する要因は、第1部の尺度I、II、V、第2～3部の尺度IVであり、やや関連するのが、第1部の尺度VI、第2～3部の尺度III、第4部の4つの尺度、及び第5部の2つの尺度であると見られる。また、中退者は在学中から、中退率の高い学校の平均値が示す傾向をより強くもっていると言えそうである。そこには、学校制度や管理運営への強い不信があるようであるが、ストレス、友人関係、目標喪失、教師の技量といったものは、さほど関係していないようである。

なお、中退とはほとんど関係しない（留年とはいくらか関係のある）尺度であるが、第2部と第3部の尺度I（他の生徒の態度）の振る舞いが興味深い。進学校であるA校やD校の生徒は、中学時代の大きな不満が、高校入学後には高い満足に変わる。これは、学校の教育力といったものの、一端を示してはいただろうか。たとえば、現場教員がしばしば、クラスの集団作りが教科教育を成立させるための条件であると主張すること（たとえば、プロ教師の会、2001）と、符合するのではないだろうか。

表12 学校別の合成変量（主成分）の平均値（その1）

高校	第 1 部									第 4 部			
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	I	II	III	IV
A	-1.52	0.28	0.48	0.44	1.14	1.11	2.20	0.56	-0.60	0.56	0.83	1.09	0.51
B	-1.15	0.65	0.64	0.68	0.58	1.20	2.14	0.72	-1.16	0.42	0.86	0.86	0.43
C	-0.99	0.88	0.78	0.80	0.43	0.81	1.95	0.48	-1.20	0.41	0.61	0.76	0.39
D	-1.58	0.27	0.71	0.51	1.34	1.07	2.03	0.70	-0.65	0.55	0.81	0.97	0.50
E	-0.92	0.68	0.84	0.85	0.10	1.04	1.85	0.49	-1.27	0.31	0.76	0.65	0.59
F	-0.77	1.01	0.71	0.86	-0.07	0.66	1.37	0.18	-1.17	0.19	0.44	0.57	0.20
G	-0.69	1.02	0.70	0.71	0.03	0.67	1.58	0.33	-1.30	0.16	0.51	0.65	0.30
H	-1.02	0.78	0.58	0.51	-0.19	0.88	1.77	0.02	-1.34	0.27	0.65	0.62	0.39
I	-1.31	0.69	0.80	0.64	0.37	1.25	1.95	0.44	-1.08	0.50	0.87	1.07	0.68
J	-0.99	0.61	0.49	0.77	0.00	1.05	1.62	0.27	-1.11	0.37	0.72	0.79	0.41
K	-1.09	0.84	0.62	1.02	0.52	1.19	2.02	0.54	-1.00	0.37	0.73	0.75	0.40
L	-1.28	0.64	0.47	0.98	0.78	1.11	1.76	0.42	-1.04	0.35	0.51	0.76	0.26
相関比	0.26	0.24	0.12	0.19	0.46	0.18	0.22	0.19	0.24	0.12	0.14	0.18	0.13

表13 学校別の合成変量（主成分）の平均値（その2）

高校	第 2 部				第 3 部				第 5 部	
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II
A	0.27	0.90	0.64	0.81	1.17	1.03	0.60	0.77	0.27	1.30
B	0.48	1.09	0.53	0.82	0.86	1.02	0.34	0.84	0.25	1.23
C	0.36	0.76	0.29	0.53	0.61	0.60	0.33	0.41	-0.17	1.13
D	0.25	1.01	0.73	0.98	1.29	1.14	0.76	0.82	0.42	1.41
E	0.49	0.98	0.53	0.71	0.52	0.67	0.56	0.73	-0.07	1.25
F	0.44	0.99	0.38	0.60	0.48	0.36	0.41	0.54	0.08	0.94
G	0.43	0.90	0.20	0.39	0.56	0.56	0.18	0.33	-0.05	1.00
H	0.52	1.08	0.38	0.60	0.85	1.04	0.65	0.71	0.03	0.98
I	0.44	0.98	0.52	0.81	0.99	0.57	0.53	0.53	0.31	1.21
J	0.53	0.87	0.35	0.48	0.77	0.72	0.68	0.60	0.32	0.90
K	0.38	0.97	0.34	0.62	0.44	0.69	0.31	0.50	0.34	1.06
L	0.41	1.00	0.53	0.63	0.62	0.92	0.48	0.87	0.22	1.25
相関比	0.09	0.08	0.15	0.15	0.28	0.23	0.16	0.17	0.18	0.14

表14 中退者等の合成変量（主成分）の平均値（その1）

高校	第 1 部									第 4 部			
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	I	II	III	IV
退学	0.02	1.50	0.94	0.54	-0.41	0.34	1.63	0.26	-1.35	0.12	0.49	0.48	0.14
留年	0.18	1.08	0.87	0.55	-0.34	0.52	1.71	0.20	-1.26	-0.05	0.84	0.29	0.23
進級	-1.27	0.59	0.62	0.72	0.57	1.10	1.94	0.47	-1.01	0.43	0.74	0.87	0.47
全体	-1.15	0.67	0.65	0.72	0.49	1.04	1.91	0.45	-1.04	0.39	0.72	0.83	0.44

表15 中退者等の合成変量（主成分）の平均値（その2）

高校	第 2 部				第 3 部				第 5 部	
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II
退学	0.49	0.81	0.14	0.11	0.84	0.81	0.22	0.09	-0.20	0.80
留年	0.35	1.09	0.37	0.37	0.53	0.48	0.18	0.22	-0.07	0.97
進級	0.39	0.99	0.50	0.74	0.81	0.82	0.53	0.69	0.23	1.20
全体	0.40	0.96	0.47	0.69	0.79	0.80	0.48	0.64	0.18	1.16

判別分析： 本報告では、中退に関連する次元の抽出にとどめ、中退の原因を、因果分析的に追究することは避けるが、ここで得られた大きさがどの程度のものであるかを示すために第1部の9尺度を用いた判別分析を行った。判別の方程式は以下ようになる。

$$Y = 0.77F_1 + 0.03F_2 - 0.06F_3 - 0.08F_4 - 0.34F_5 - 0.13F_7 - 0.15F_8 - 0.05F_9$$

ここで、 $F_1 \sim F_9$ は、第1部の9つの尺度であり、 Y の値が大きいほど中退の可能性が高いと見なされる。各尺度にかかる重みをみると、第1（「問題行動」）と第5（「道具としての学校」、符号は負）が大きい。前者が中退を「促進」し、後者が「抑制」する大きな要因であることになる。

判別の効率を示すために、進学者に対しては下位から、中退者に関しては上位からの累積度数を計算した。結果は図2に示されているが、この交点が誤判別率となる（水野、1995）。その値はほ

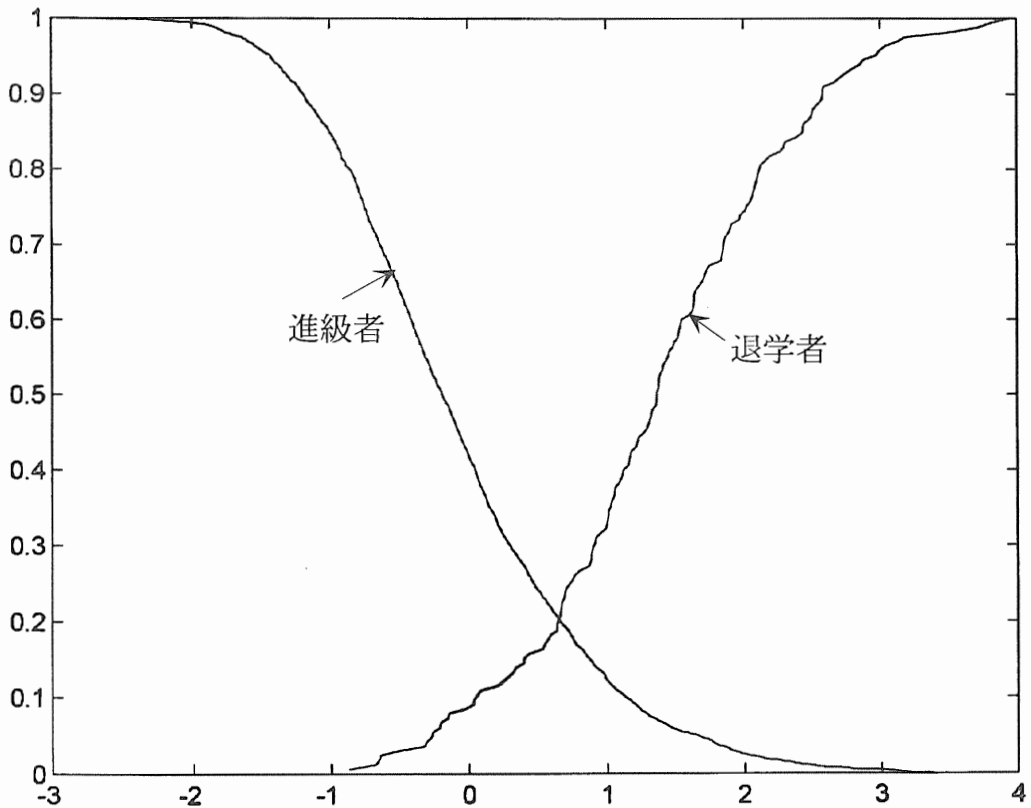


図2 第1部のデータによる判別分析の結果

ば20%であり、かなり高いものと見ることができよう。すなわち、判別の方程式によって、0.64以上の値を示した生徒の1年後における中退可能性は80%あることになる。

ただし、これを実際の退学予測に用いることには慎重でなければならない。中退は大変出現率の低い現象であるから、逆に誤って中退者と診断される生徒は20%といっても、その数は膨大なものになるからである。

しかしながらこの結果は、われわれの調査が、高校中退者の意識を記述する上で、決して的外れなものでないことを明らかに示している。

4. 考 察 — 何が高校中退の引き金を引くのか

以上の結果をまとめてみると、中退と比較的大きな関連をもつ次元は、問題行動傾向(1-I)、すなわち、われわれが、「社会化への不安の低さ、根拠のない楽天性」と解釈するもの、反学校的態度(1-II)、いわば、「こんな学校なら要らない」という意識、道具としての学校(1-V)、すなわち、「大学に行く以上仕方がない(とは思わない)」という意識、家庭・両親との関係の良さ(1-VI)、要するに、「家族を裏切れない(とは思わない)」という意識、高校の学校運営への満足度(3-IV)、つまり、教員の教科教育以外の側面への満足度(の低さ)の5つである。

これらの次元は、残念ながら学校に対する明確なネガティブな評価、あるいは学校は不要であるという意識と(1-I、1-II)、どちらかと言えば、学校への消極的な評価を持たないこと(残りの次元)からなっている。すなわち、中退者にとって学校は不要なところなのであり、引き止める要因があるとしても、大学へのやむをえないステップ、あるいは、家族への配慮とか学校の教科教育以外の側面といった、積極的でないものばかりである。つまり、退学者は明確で積極的な理由を持って退学していくにもかかわらず、進級した生徒の多くは、消極的な理由で、いわば仕方なく高校に通いつづけていることになる。これは、大変深刻な問題であると言わなければならないであろう。

中退と多少関連する次元としては、中学、高校の学校運営への満足度(2-IV、3-IV)、地域への愛着(5-I)、地域への参加度(5-II)が上げられる。ここでも、学校に行く誘引が、教科教育ではなく、コミュニティとか環境の側にあることが示唆される。

中退と関連することが予想されるにもかかわらず、実はあまり関連しない次元は、現代の高校生への批判的態度(1-IV)（「自分は違う」と「彼らのせい」が相殺するのであろうか?）、明確な目的意識(1-VII)（もはや、学校が受け皿になり得ないのだろうか?）、中学高校での他の生徒の態度(2、3-I) 中学高校の学校の雰囲気である。ただし、これらは、ともに留年や長期欠席とは関連している。

従来調査においても見られるように、友人関係(1-VII)については、対象となった高校生は全般に満足度が高く、中退とはほとんど関連しない。また、ストレス(1-III)は全般的に高いが、これも、青年期前期としてはほどほどの水準であるのか、中退と関連するものではないようである。

5. 終わりに — 残された問題

本報告では、中退と関連する生徒の意識についてかなり明らかにすることができた。また、この

問題の真に深刻な点を示唆することもできたと考える。しかしながら、いくつかの限界もある。

中退と関係がないとした次元について、それらが重要でないと考えてはならないことである。まず、ここでキャッチすることのできた中退者は、ともかくも調査時点には登校していた生徒であり、今回調査対象とした高校では、これとほぼ同数の調査対象となっていない中退者がある。また、今回は対象となっているには1年次での中退者であり、2年次以降で今回あまり関係がないとした次元が効いてくる可能性も否定できない。

また、中退が望ましくない事実であり、少しでも減らす必要があるとすれば、中退との因果関係が明らかにされる必要があるが、本報告ではあえてそこまで踏み込むことを避けている。

われわれは、生徒の調査に加えて教師の指導態度調査などをつきあわせ、あわせて中退生徒への調査結果を分析するという計画を立てた。すでに、それらの調査は実施されており、現在、分析結果を生徒調査と合わせて検討中である。さらに、中退した生徒の状況をその時点での担任に回想してもらいインタビュー調査も進行中である。こうした検討を通じて、ある程度の因果関係の推測や、さらにより一般的に現在の高校および高校生をめぐる課題が明らかにされることが期待できると考える。

文 献

- Kiers, H.A.L. & Ten Berge, J.M.F. (1989). Alternating least squares algorithms for simultaneous components analysis with equal component weight matrices in two or more populations. *Psychometrika*, 54, 467-473.
- Kiers, A.L. & Ten Berge, J.M.F. (1994). The Harris-Kaiser independent cluster rotation as a method for rotation to simple component weights. *Psychometrika*, 59, 81-90.
- 水野欽司 (1996) 多変量データ解析講義 朝倉書店
- プロ教師の会 (編著) (2001) 学校の教育力はどこにあるのか 洋泉社
- 杉江修治・清水明子 (2000) 高校中途退学研究の動向と課題 中京大学教養論叢、41, 923-941.